

News Release

大学生・新卒社会人の就業観に関する調査結果 状況を見て最適キャリアを選択したい「状況観察型」が最多

大学生・新卒の就業観を先進的な分析で「状況観察型」「チームワーク重視型」「自由重視型」「安定志向型」「自己裁量重視型」「プロフェッショナル志向型」の6タイプに分類し傾向を導出

デロイトトーマツ コンサルティング合同会社(本社:東京都千代田区 代表執行役社長:宋修永 以下、DTC)は、企業の採用活動における人材のターゲティング及びアプローチの検討材料として、国内学生及び社会人2年目までを対象に「就業観に関する調査」を実施し、その分析結果をまとめました。

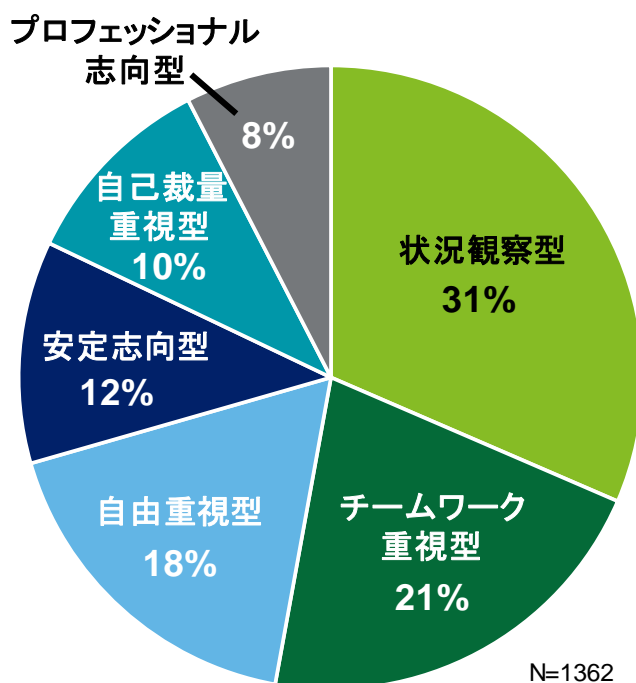
企業の新卒採用は、少子化に伴う売り手優位の状況が続き、採用対象である学生も、スマートフォンやソーシャルメディアを使いこなすのが当たり前の世代へと移行するなど、新たな局面を迎えています。求人媒体を中心とした既存の採用手法のみでは幅広い候補者を集めることが困難になる中、採用ターゲットを明確にし、適切なメッセージ、媒体を用いてターゲットに訴求する、採用ブランディングが重要になっています。

DTC ではこうした課題に対し、デジタル戦略コンサルティング部門と人事コンサルティング部門が共同でデジタル採用ブランディング支援サービスを提供しており、関連して「就業観に関する調査」を2018年4月18日～4月20日に計1,362人の大学生(うち920人)、新卒2年目までの社会人(うち442人)を対象に実施しました。

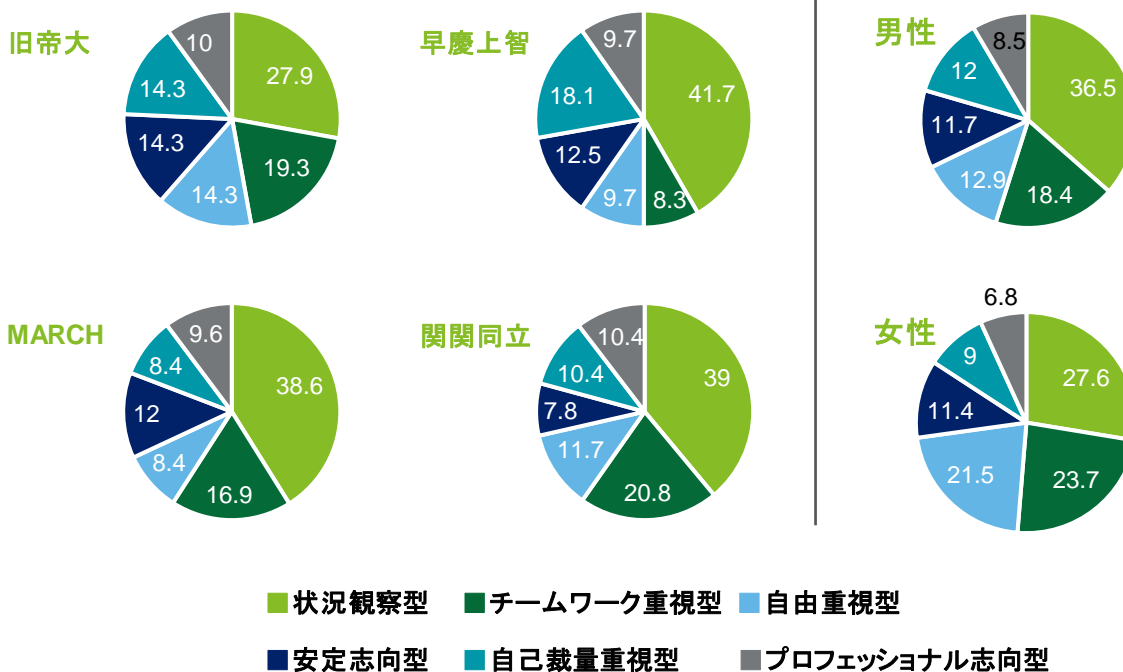
調査では、回答結果より因子分析を行い、大学生・新卒を就業観で次の通り、6つのタイプに分類しました。本資料では大学分類別、性別ごとに各タイプの割合の違いをまとめたものを明らかにしています。

状況観察型	会社選定において様々な軸で比較検討を行い、状況に応じて最適な意思決定を行う
チームワーク重視型	職場の人間関係を何よりも重視し、大切な仲間と共に仕事を遂行する事を志向する
自由重視型	自分のやりたい事を柔軟に行える事を重視し、仕事とプライベート両方の充実を志向する
安定志向型	企業や人間関係等、所属する環境が長期的に安定している事を重視する
自己裁量重視型	自己裁量で仕事を遂行する事を重視し、キャリア初期にはチャレンジ経験を志向する
プロフェッショナル志向型	どこに行っても通用するスキルや専門性を高める事を重視し、(それを実現しやすいと学生が考える)大企業を志向する

調査対象全体に占める割合では「状況観察型」が最多の 31%となり、次いで「チームワーク重視型」が 21%、「自由重視型」が 18%となっています。「自己裁量重視型」や「プロフェッショナル志向型」の割合は 10%以下となりました。



一方で、出身大学分類別や男女別に比較した場合には、旧帝大では「状況観察型」の割合が低い、早慶上智では「自己裁量重視型」の割合が高い、などタイプごとの構成比に差があることが分かります。



調査で質問した就職希望業界・職種やライフステージの考え方や働き方の価値観、魅力的な会社や仕事などの回答をもとに各タイプについてペルソナ分析を行い、その特徴を明らかにしています。

状況観察型は、会社選定における絶対的な拘りは無く、状況に応じた最適な意思決定をしたい。常に状況を観察しながら、柔軟に対応する事を好む



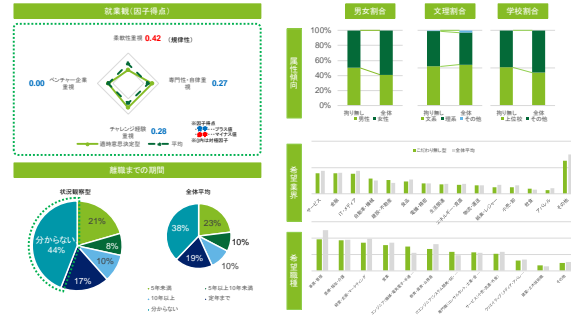
状況観察型は全クラスタ中最も割合が多く、全因子において決定的な拘りが無い。また、離職までの期間も「わからない」としている割合が多い



ペルソナ(状況観察型)

ペルソナ	写真		人生のゴール	・ その場その場の状況に臨機応変に対応する事を優先度は、より良い人生を選択していきたい
	年齢/性別	20歳/男性	キャリア観	・ 状況に合わせて柔軟に対応する事が大事だと考えられている ・ 大きな目標に向かうよりも、日々の具体的な目標を定めて一つ一つ解決して行く事が好き ・ 相手や状況が何を変えているか、を知り、その期待に応える事が大切だと考えている
基本情報	文系/理系	理系	職場に対する期待	・ 明確に、役割や期待を伝えてくれる事 ・ 会社の目指す方向性を理解、発信してくれる事
	学部	理工学部 機械工学科	モチベーションが高まるような事	・ 日々、期待に応えながら、具体的なハードルを一つ一つクリアしていく事で、感謝される事 ・ 自分の役割が明確かつ具体的に定義されている事
キャリアのストーリー	卒業予定	2020年3月	将来的で長期的なゴールを置き、そこから逆算して計画を作成する事	・ 相手の期待が不明確で曖昧な事
	性格	色々な事を身につくのが好きである 長期的な目標を決めるよりも短期決戦が好き	必要なサポート	・ 役割の具体的な定義及び本人への伝達 日本の文化や風土及び価値観の提示 日々具体的に進められる職務の提供
	ストーリー	・ 勉強は得意で、どんな資料もある程度理解し、ついでに事ができる ・ 状況に応じて柔軟かつ冷静に対応する事ができるため、それぞれの時点でも進め方を一つずつ決めてきた ・ 長期的な目標を設定するのではなく、まずは自分に合った会社を選択してみて、状況に合わせて次の選択しようと考えている		

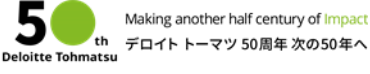
クラスタープロフィール詳細 ~状況観察型①~



DTC が提供するデジタル採用ブランディング戦略の構築・実行支援のサービスでは、こうした手法を用いて、企業ごとに必要とする人材から、採用母集団・採用ターゲットとしての候補者像の設定、伝えるべきメッセージの策定など、ブランド調査からクリエイティブ制作、運用に至るまで一連の採用ブランディング戦略の策定・実行支援を行っています。

なお、デジタル採用ブランディング戦略の構築・実行支援サービスの概要、お問い合わせ先については以下 URL をご確認ください。
<https://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/human-capital/solutions/hcm/talent-acquisition.html>

<報道機関の方からのお問い合わせ先>
 デロイトトーマツ コンサルティング 広報担当 高橋、青堀
 (デロイトトーマツ コーポレート ソリューション 合同会社)
 Tel: 03-5220-8600 Email: DTC_PR@tohatsu.co.jp



デロイトトーマツ グループは日本におけるデロイトトウシュートーマツ リミテッド(英国の法令に基づく保証有限責任会社)のメンバーファームであるデロイトトーマツ合同会社およびそのグループ法人(有限責任監査法人トーマツ、デロイトトーマツ コンサルティング 合同会社、デロイトトーマツ ファイナンシャルアドバイザリー合同会社、デロイトトーマツ 税理士法人、DT 弁護士法人およびデロイトトーマツ コーポレート ソリューション 合同会社を含む)の総称です。デロイトトーマツグループは日本で最大級のビジネスプロフェッショナルグループのひとつであり、各法人がそれぞれの適用法令に従い、監査・保証業務、リスクアドバイザリー、コンサルティング、ファイナンシャルアドバイザリー、税務、法務等を提供しています。また、国内約 40 都市に約 11,000 名の専門家を擁し、多国籍企業や主要な日本企業をクライアントとしています。詳細はデロイトトーマツ グループ Web サイト(www.deloitte.com/jp)をご覧ください。

Deloitte (デロイト) は、監査・保証業務、コンサルティング、ファイナンシャルアドバイザリーサービス、リスクアドバイザリー、税務およびこれらに関連するサービスを、さまざまな業種にわたる上場・非上場のクライアントに提供しています。全世界 150 を超える国・地域のメンバーファームのネットワークを通じ、デロイトは、高度に複合化されたビジネスに取り組むクライアントに向けて、深い洞察に基づき、世界最高水準の陣容をもって高品質なサービスを Fortune Global 500® の 8 割の企業に提供しています。"Making an impact that matters"を自らの使命とするデロイトの約 245,000 名の専門家については、[Facebook](https://www.facebook.com/deloitte)、[LinkedIn](https://www.linkedin.com/company/deloitte)、[Twitter](https://twitter.com/deloitte) もご覧ください。

Deloitte (デロイト) とは、英国の法令に基づく保証有限責任会社であるデロイトトウシュートーマツ リミテッド("DTTL")ならびにそのネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびその関係会社のひとつまたは複数を含みます。DTTL および各メンバーファームはそれぞれ法的に独立した別個の組織体です。DTTL (または"Deloitte Global")はクライアントへのサービス提供を行いません。Deloitte のメンバーファームによるグローバルネットワークの詳細は www.deloitte.com/jp/about をご覧ください。

Member of
Deloitte Touche Tohmatsu Limited